

自分の経験の中から
伝えられることがある。



デスクの上に広げた住宅図面をじつと見ていたかと思えば、今度は2台のパソコン画面をチェックしはじめた佐世哲夫さん(70歳)。仕事に向き合うその眼差しは真剣そのも

のだ。一級建築士・二級建築施工管理技士などの資格を持つ佐世さんは、「江藤産業(株)」建築工務部で主に住宅の新築・増築・リフォームにおける図面確認や積算、耐震

とりをしながら、ひとつの住宅が出来るまで、一連の仕事に携わって管理できることにやりがいを感じます。住宅は一軒一軒がオリジナルですから、毎回が新たなチャレンジなんです」と生き生きとした表情で語る。

出身の臼杵市で高校卒業まで過



営業担当者と一緒に、お客様と打ち合わせ中。時には楽しいトークも交えながら。

ごし、大学進学を機に大分を離れ、県外で就職。再び大分へ戻って来たのは55歳の時。それまでは、東京に本社を置く建築系の会社で関東圏を中心に働いていたが、「いずれは大分に戻りたい」という思いから退職したという佐世さん。ほどなくU・Iターン就職希望者対象の合同企業面接会に参加して、2002年12月、「江藤産業(株)」に技術者として採用され、主に県南地区の住宅を担当してきた。

60歳の定年退職後も嘱託社員として勤務を続け、65歳で退職。それから4年近く趣味を楽しみながら悠々自適な生活を送っていたが、「また働きたい」と思いはじめたところに「江藤産業(株)」から復帰の要請があり、2016年1月より、69歳で再雇用されることとなった。

再雇用後の仕事内容の基本は以前と同じだが、デスクワークが中心。現場に向くことや、体力を使うような作業は減り、新たな立場で仕事に向き合っている。かつては転勤や異動、転職も経験し、新しい環境に身を置いて仕事に向き合う機会が多かった佐世さんは「郷に入れば、郷に従え」の精神を大切にしているという。「環境が変われば、いろんなこと

これまでと違うのは、当たり前。

診断のほか技術的なアドバイス、工事現場の管理などを行う建築分野のスペシャリストである。

「仕事内容は多岐にわたりますが、お客さまや工事関係者とやり

がこれまでと違うのは当たり前。新たな会社や職場の環境に溶け込むには、自分から積極的に周囲の人と話すことです。話していくうちに打ち解けていくものから。良い仕事をするためにも、周囲の人たちと良い関係を築くのは大事です」

お客さまをはじめ、大工や職人、業者など、さまざまな人と関わる仕事柄もあって、人と接することは得意。お互いに気持ち良く仕事をするために、日ごろから社内・社外の人を問わずコミュニケーションを大切にしてきた。これから先も可能な限り働き続けたいという佐世さんには、大きな目標がある。

「この仕事は一人ひとりが住宅のプロデューサーとして、良くも悪くも自分流しの仕事スタイルを持っているのですが、それぞれの仕事の中身を洗い出し標準化して、会社としての仕事スタイルを確立したいです。それが全社的な仕事のレベルアップにもつながるので。そして、一緒に働く若い仲間にも、私のこれまでの経験から少しでも多くのことを伝えていけたら」と使命感に燃える。

プライベートでは、65歳で退職した後には地元の仲間と立ち上げた「うすき巨樹・名木の会」の代表



「江藤産業(株)」本社のショールームで、ガスコンロについて説明する佐世さん。

を務め、臼杵市内の樹木を調査し保存につなげる活動を楽しみながら続けている。月に1〜2回のペースで、これまで調査した樹木は400本以上。昨年はそれらの写真展も行った。

地元の同級生や大学の写真部の仲間との同窓会、関東で働いていたころの仲間との毎年の旅行も楽しみにしており、今年も鹿児島へ行く予定なのだとか。

人、そして、自然とふれあうのが好きな佐世さん。それは仕事にもプライベートにもつながり、毎日に充実した笑顔をもたらしているようだ。

